

題名 私の事を覚えてくれないおばあさん リョウ はん
(底 篤 刘 晗)

日本に来てから、私は大勢の可愛い日本の
方たちと知り合いになりました。一緒に歌を
歌ったり、またある時は散歩したり。ある日
、ひとりの可愛いおばあさんと出会いました。
そのおばあさんは、毎日笑ったり、たくさん
の歌を歌ったりします。でもおばあさんは
、たまに怒ったり、機嫌が悪くなったり、悲
しい事を思い出して、ふさぐことがあります
。そんな時は、私はおばあさんに歌を歌って
あげます、するとすぐに私と合唱し始め、ま
た笑顔にもどります。しかし私と一緒に合唱
したはずなのに、おばあさんはすぐに私の事
を忘れてしまいます。時々「私の事を覚えて
いますか」とおばあさんに尋ねてみますが、
いつも「ほほほ」と笑って「はい、おやつ」
と答えます。やっぱりおばあさんは私の事を
全然覚えてくれていませんでした。でも私は
がっかりなんかしません。そして悲しくあり
ません。何故なら、おばあさんが認知症とい
う病気になった事を知っているからです。

5

15

20

2019年の冬に介護の勉強をするために、日本にやってきました。成田に到着して、約一ヶ月の研修が終った後、特別養護老人ホームに配属になりました。はじめは、実習指導員の方から、利用者の方の名前や起床、移乗、排泄、そして食事の介助など教えてもらいました。全て教科書で教えられた通りにするだけで精一杯でした。あれから約一年経ち、今ではほとんどの介護業務ができるようになりました。さらに、介護の仕事を、教科書通りに行動するだけではなく「おもいやり」「愛情」「忍耐」「責任感」が大切だという事にも気がつきました。

例えば、あるおばあさんは話ができないので、急に高熱が出たとしても、また辛くても、相手にそれを伝える事ができません。おばあさんが少しずつ変化していく事に注意をして、それに気がつく事が必要なのです。つまり、おもいやり。歌が好きなおばあさんの場合、職員は一緒に歌を歌い、花が好きなおじ

いせんの場合、満開の桜の下でおじいせんと一緒に花見をします、つまり愛情。あるおじいさんは食事が嫌いで、お茶も良く飲みません、そんな時、少しずつ食べさせてあげる、つまり忍耐。歩行が安定しないおばあさんをしっかりと見守り転倒をしないように事故を防止するには責任感。

先日一緒に合唱した可愛いあるおばあさんが食後ベットに横になつている時、少々した拍子から嘔吐してしまいました。その嘔吐物はおばあさんの髪の毛にもかかっていたので、それをまれにしていたら、「なんだニリや」と言って口を尖らせて怒って、私をにらみつけました。でもそのおばあさんに腹がたたないどころか、この一年この施設で勉強してきた事で、そのおばあさんを子供のように優しく感じようになりました。

「おもしや」「愛情」「忍耐」「責任感」これらからもこの言葉を忘れずに勉強を続けていきたいと思います。